



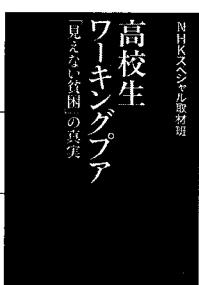
ブック

「7人に1人の  
「貧困状態」  
の高校生にとつ  
て、生活費を稼  
ぐためのダブル  
ワークは当たり  
前の世話を家事を  
前で、毎日兄弟  
の世話を稼ぐため  
のダブルワークは  
当たり前の世話

危険もある。そのほとんどは「家族のため」に働いており、決して後ろ向きに生きているのではない。そして、最新ファッショング（実は低価格なファストファッショング）にスマートフォン（実はライフルイン）が、「普通」に見せれる点でも、同書は注意を促す。

同書は、「見えない貧困」について、困難度を4段階に分類し、さらには貧困研究の先進地であるイギリスで開発された「剥奪指標」（欠如した権利）を用いて、これを可視化する取り組みを紹介する。その結果、①物的資源＝生活に必要な「物」と、②ソーシャルキャピタル＝人と

## 高校生ワーキングプア 「見えない貧困」の真実



NHKスペシャル取材班 著  
1404円 新潮社  
☎03-3266-5111

のつながり、③ヒューマンキャピタル＝教育や経験の三つの欠如を指摘する。

同書は、定期試験期間中でもシフトを入れられてしまう「ラックバイト」に対して、「自分がいないと店がまわらない」と考え、断れない責任感のあるまじめな生徒の例を挙げる。たしかに学習意欲が高い生徒に対しては、解決してやりたい。だが、学習意欲が湧かないまま、定期試験のみに追いやられる生徒に対しては、社会的に本質的な支援が必要と評者は考える。彼らが社会に出てから、個人として、社会人として、関係を持つたり、社会的な広い視野からものを見たり、考へたりできるような力を育むことこそ、本質的な教育目的とすべきではないだろうか。

（前聖徳大学教授・西村美東士）